

ガス溶断器の点検のお願い

ガス溶断作業に使用する**圧力調整器や吹管(ガス切断器・溶接器)**などの不具合に気が付かず、整備不良のまま使用したことが原因で、火災や人身事故など重大な災害が発生しています。災害防止のために、日常点検及び定期点検等が重要です。

**ガス溶断器具を安全にご使用いただくために
自主点検を必ず実施してください!**

破裂事故
逆火事故
ガス漏れ事故



注1:可燃性ガス及び酸素を用いて行う金属の溶接、溶断又は加熱の業務を行う場合は、ガス溶接技能講習修了者あるいはガス溶接作業主任者の免許を有していることが必要です。(労働安全衛生法61条、及び施行令20条)

ガス切断器・溶接器・加熱器の点検

☆点検方法はの詳細は、各メーカーの取扱説明書をご参照いただくか、または各メーカーにお問い合わせください。

点検項目 **1日1回、作業前に必ず点検をしてください。**

定期点検は、次の点検項目で実施をお願い致します。

点検項目	日常点検	毎月の自主点検
外観	○	○
バルブ漏れ(気密確認)	○	○
火炎状態の確認	○	○
外部漏れ(気密確認)	○	○

5年でのメーカー定期点検
又は、交換を推進します



圧力調整器の点検

☆点検方法はの詳細は、各メーカーの取扱説明書をご参照いただくか、または各メーカーにお問い合わせください。

点検項目 **1日1回、作業前に必ず点検をしてください。**

定期点検は、次の点検項目で実施をお願い致します。

点検項目	日常点検	毎月の自主点検
外観	○	○
外部漏れ(気密確認)	○	○
出流れ(気密確認)	○	○
使用圧力範囲の確認	○	○
圧力低下の確認	○	○

7年でのメーカー定期点検
又は、交換を推進します



使用上の注意

ユーザーは、乾式安全器の使用に際しては、乾式安全器に表示された最高使用圧力を超えて使用し、又は、みだりに分解、改造等を行ってはならない。

定期自主検査の周期

ユーザーは乾式安全器を購入後、年に1回以上保守・点検のため、**定期自主検査**を行うこと。

再検査の周期

ユーザーは、乾式安全器を購入後、3年を経過して使用する場合は、メーカー又はメーカーが指定する事業所(者)で**再検査**を受けて下さい。以後再検査の周期は、3年毎に1回とする。

定期自主検査の方法

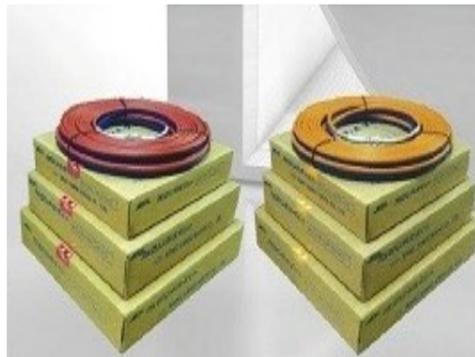
定期自主検査の項目は「外観検査」「気密試験」「逆流試験」「遮断試験」とし、気密試験等に用いるガスは、乾燥した空気又は窒素を使用して行う。**不適合については、ユーザーで分解修理せずにメーカーに修理を依頼すること。**



KOIKE



切断器 ゴールドライトシリーズ



アポロハンディホースシリーズ



調整器 セフティゴールドシリーズ



乾式安全器 ゴールドマスターシリーズ



アポロ ミニタックシリーズ

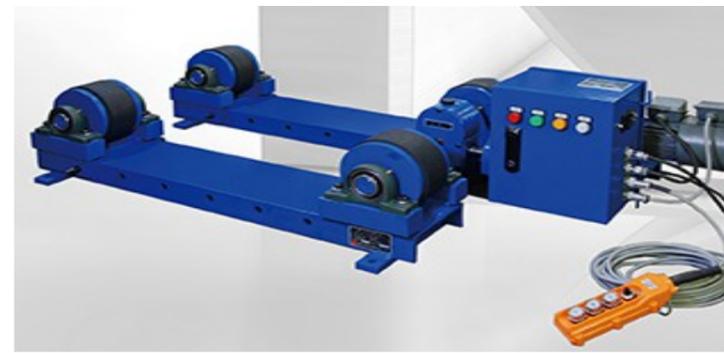


天秤型バッテリーリフター

薄物鋼板の運搬に適しています。標準型バッテリーリフターと比較して、3割から10割増の長尺鋼板の吊り上げが可能です。長手方向の鋼板のたわみには、2個のマグネットが支えるため、ヒンジ機構により鋼板に馴染み、巾方向に対しては軸受にクリアランスを設け、これも馴染みをもたせているので、安全に安定した搬送が出来ます。

永磁リフティングマグネット PLS

鋼板、形鋼、丸棒鋼など、形状を選ばない搬送吊り用マグネットです。ネオジウム磁石を仕様しています。操作は簡単なレバー式です。電源バッテリーなどは不要です。本体の耐熱温度は60度となります。ラインナップは、PLS-100、PLS-200、PLS-500、PLS-1000があります。

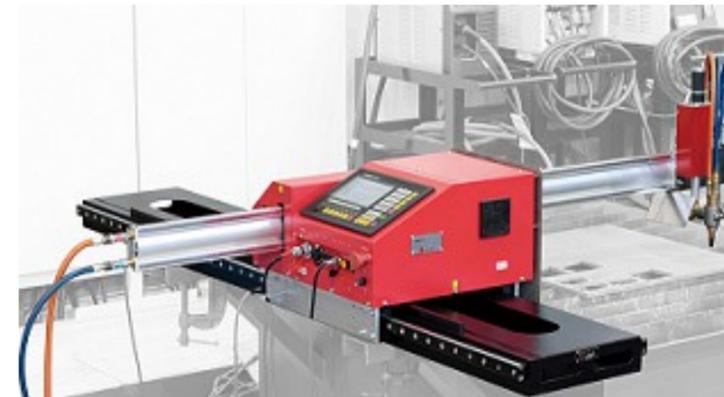


TR-R型ターニングロール

回転力を伝達するフリクションロールは、鋼管スリーブにゴムをモールドにより焼付し、これを鋼製ロールで両側から固くボルト締めした構造です。鋼製ロールで十分な強度を確保するとともに、ゴムによって十分な摩擦力が得られます。

PNC-12EXTREME CNC切断機

コンパクトなボディにCNC制御装置を搭載した、ポータブル感覚で手軽に使えるCNC切断機です。ガス仕様とプラズマ仕様をラインナップ。47種類の多彩なパターン形状を内蔵。PNC専用CAD/CAMソフトが付属。



ハンディオートPLUS

ハンディオートIIの機能に加え、自動点火装置とレバー式の予熱炎のON/OFF機能を組み込んだ、手持ち式の半自動切断機です。平面での切断は勿論のこと、垂直面、アングル材、H鋼、R面において、曲線、円、図形、開先切断を自由自在に行う事ができます。ハンディオートPLUSキットは携帯に便利な専用ケース付です。

